

2年次選択科目 乳腺科臨床研修プログラム

1年次選択必修外科研修プログラムが「一般外科」におけるプライマリ・ケアの習得をその主な目的としたのに比較すると、このプログラムは乳腺腫瘍学の知識と技能をより専門的に学ぶための内容となっている。

乳腺科は外科的治療、抗がん剤などの内科的治療、また終末期治療など乳腺疾患に関して総合的な診療を科であり、その対象は男女問わず乳腺疾患を主体とした診療を専門としている。乳腺疾患を扱う医師として幅広い知識と技能の養成が我々の最大の目標とするところである。

本研修プログラムの内容は、上記事項を網羅しており、ここに学ぶ研修医にとって忙しくも充実した日々になると確信している。

1. 研修施設

獨協医科大学病院

2. 研修期間

1か月～6か月

3. 指導体制

指導責任者： 渡邊 久美子 准教授

主任指導医： 伊藤 淳

4. 診療・研修の特徴

- ① 乳腺疾患の診療により、その知識や手技を修得する。解剖学、病理学、内科学、外科学、緩和医療等にも必然的に触れるため幅広い見識を有する医師の養成につながる。
- ② カンファレンスは、毎週一回術前カンファレンスを行っている。他職種、他科との連絡が密で協力関係にある。
- ③ 診療は、患者本位を基本原則としている。インフォームドコンセントを十分に行い診療している。研修医は患者への対話術を修得し、手術を受ける患者の心理や癌告知の問題に接する。
- ④ 外来研修では患者との接し方、診断の方法、治療方針決定の課程、MMGの読影、超音波の操作、組織検査（穿刺吸引細胞診、太針生検）、マンモトーム生検の方法などを学ぶ。

研修に関する週間スケジュール

	朝	午前	午後	それ以降
月	病棟回診	手術	手術	医局会/病棟研修
火	病棟回診	手術	手術	術前カンファ/症例検討会
水	病棟回診	外来研修	外来研修	病棟研修
木	病棟回診	外来研修	外来研修	病棟研修
金	病棟回診	外来研修	外来研修	病棟研修
土	病棟回診	外来研修		病棟研修

5. 研修目標

基本的診断・検査法	一般目標 (GIO)
	基本的診断・検査法を選択し、その結果を解釈して治療に反映させる
	到達目標 (SBO)
	乳房診察を習得する MMG 検査の読解をする 超音波検査を行い読解する 乳腺腫瘍生検を行い、結果を読解する

手術・治療方針	一般目標 (GIO)
	手術適応について理解し、患者に最適な治療法を選択する
	到達目標 (SBO)
	術前検査所見を総合して手術適応を判断し、治療方針を決定する 手術の術式 (切除範囲、リンパ節の郭清範囲など) を選択する 手術術式を理解し、多くの手術に参加する 非手術症例に対する治療方針を選択する

周術期管理	一般目標 (GIO)
	手術の合併症や輸液管理の理解を深め、適切な周術期管理を行う
	到達目標 (SBO)
	併存疾患 (糖尿病など) の有無を評価し、それを管理する 術前術後の輸液管理の知識を持ち実践する 術前術後の栄養管理 (経口、経腸経静脈) の知識を持ち実践する 術前術後の呼吸管理の知識を持ち実践する 抗菌薬の使用適応、禁忌、種類、投与方法の知識を持ち処方する 術後合併症の知識を持ち、予防計画あるいは治療計画を立てる 抗癌剤・放射線治療の知識を持ち、集学的治療計画を立てる 創傷治癒の知識を持ち、術後の創部を管理する

基本的手技	一般目標 (GIO)
	指導医の介助あるいは監督下で外科的基本手技を習得する
	到達目標 (SBO)
	乳房部分切除術を経験する 乳房全切除術を経験する センチネルリンパ節生検 (蛍光色素法、RI 法) を経験する 外来小手術を施行する

6. 経験が求められる疾患・病態

指導医の指導下で術者可能な疾患

外来小手術：表在性腫瘍、膿瘍、化膿生乳腺炎、リンパ節生検
小手術：線維腺腫、葉状腫瘍

指導医の指導下で経験する疾患

乳腺疾患：乳がん